

本軍の奮闘一つも現状を、誰かに事管に於て知らせる味方  
に出来ぬものなり。然るに川村は何れ思ふ大に此敵に於て  
敵同様に推演を執るを電報し自身又母国に  
多量に電報を著す一に(世軍例の長門が  
表但神子大(軍)の(上)自身又徳  
監謀に悔名如合例を多大に反感と悲憤と下  
要る川村の所為不敵の軍門に降るは同様に  
敵同様に其醜態暴露に於て心をなや、嘲笑  
と扱ふが真意知らず新聞の報を以て何等の奇事と  
思ふものあり

三、

長門海軍の表の暗中飛躍  
長門は十九日早朝津浦一帯進行の報